

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : アンモニア水

SDS整理番号:13370jis-5

製品種類 :

試薬

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 純正化学株式会社

住所 : 埼玉県越谷市大間野町1-6

担当部署 : 品質保証部

電話番号 : 048-986-6161

FAX : 048-989-2787

e-mail address : shiyaku-t@junsei.co.jp

## 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

金属腐食性物質:区分 1

健康に対する有害性

急性毒性(経口):区分 4

皮膚腐食性/刺激性:区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分 1

呼吸器感作性:区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 1(中枢神経系、呼吸器)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):区分 3

(注) 記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

H290-金属腐食のおそれ

H302-飲み込むと有害

H314-重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

H318-重篤な眼の損傷

H334-吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

H370-臓器の障害

H402-水生生物に有害

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

他の容器に移し替えないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- 保護手袋/保護衣/保護面を着用すること。
- 保護眼鏡/保護面を着用すること。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

#### 応急措置

- 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
- 直ちに医師に連絡すること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
- 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。
- 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

#### 貯蔵

- 施錠して保管すること。

#### 廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別:

混合物

化学的特定名: アンモニア水 (CAS No. 1336-21-6, 化審法番号 1-314, ECNO:215-647-6)

成分名:アンモニア

含有量 (%):28~30

化学式:H<sub>3</sub>N

化審法番号:1-391

CAS No.:7664-41-7

ECNO:231-635-3

成分名:水

含有量 (%):上記成分の残量

化学式:H<sub>2</sub>O

CAS No.:7732-18-5

MW:18.02

ECNO:231-791-2

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

#### 危険有害成分

毒物及び劇物取締法「劇物」該当成分

アンモニア; アンモニア水

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

アンモニア, アンモニア水

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

アンモニア, アンモニア水

### 4. 応急措置

#### 応急措置の記述

##### 一般的な措置

- 直ちに医師に連絡すること。
- 被災者を温め、安静にする。

救急車を呼ぶ。

被災者が物質を飲み込んだり、吸入したときは口対口法を用いてはいけない：逆流防止のバルブがついたポケットマスクや他の適当な医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。

物質へ暴露(吸入、吸飲、皮膚接触)は遅効性の影響を生ずるおそれがある。

#### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。

呼吸困難のときは酸素吸入を行う。

呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

#### 皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。

皮膚への接触を最小限とするため、付着物を広げないようにする。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

#### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

意識のある場合はコップ1 - 2杯の水を飲ませる。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

#### 急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

(吸入もしくは飲み込んだ場合の症状)

咳、咽頭痛、灼熱感、息苦しさ、息切れ、嘔吐、腹痛

(皮膚に付着もしくは目に入った場合の症状)

目の充血、発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷、水疱

#### 医師に対する特別な注意事項

医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

この製品自体は燃焼しない。

#### 使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

### 特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

防火服又は防災服を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 関係者以外は近づけない。
- 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低20分間洗浄する。
- 回収が終わるまで十分な換気を行う。
- 適切な保護具を着用する。
- 密閉された場所に入る前に換気する。
- 適切な保護衣を着用していないときは破損した容器や漏洩物に触れてはいけない。
- 漏洩時: 公共安全標識に示された避難距離をとる。必要に応じ、風下の避難距離を大きくとる。

### 環境に対する注意事項

- 上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。
- こぼれた液を希硫酸などの希酸で注意深く中和する。

### 二次災害の防止策

- 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
- 漏出物を回収すること。
- 危険でなければ漏れを止める。
- 全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)
- 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- 容器内に水を入れない。
- 低地から離れる。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

##### (取扱者のばく露防止)

- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。

##### (火災・爆発の防止)

- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

##### (局所排気、全体換気)

- 排気/換気設備を設ける。

##### (注意事項)

- 皮膚に触れないようにする。
- 眼に入らないようにする。

#### 安全取扱注意事項

- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- 取扱中は飲食、喫煙してはならない。
- ふたは注意してはずすこと。
- 本製品はアンモニアガスが発生するので気をつけること。

#### 接触回避

- 酸、金属類との接触を避けること。

#### 衛生対策

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

### 保管

#### 安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 国際/国/地方の規則に従って保管すること。

施錠して保管すること。

(避けるべき保管条件)

金属腐食のおそれがある。金属容器に保管してはならない。

この物質を容器に満たしてはならない。圧力が高まることがある。

安全な容器包装材料

他の容器に移し替えないこと。

耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

特定の最終用途

取扱いと保管に関する推奨事項は第7.1項、7.2項の情報を参照し、ばく露防止及び個人保護具については、第8章を参照ください。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(アンモニア)

日本産衛学会(1979) 25ppm; 17mg/m<sup>3</sup>

ACGIH(1976) TWA: 25ppm;

STEL: 35ppm (眼損傷、上気道刺激)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

空気呼吸器(SCBA)を着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。推奨材質: ブチルゴム

使用前に保護手袋を検査し、すり切れたり、損傷ある手袋は交換すること。

保護手袋の適合性、浸透時間は、使用条件により異なるため、保護手袋の製造業者に問い合わせること。

眼の保護具

化学品用ゴーグルを着用する。

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

繰返し又は長時間取扱いの場合、耐浸透性の保護衣とブーツを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態: 揮発性液体

色: 無色

臭い: 刺激臭

臭いの閾値: 0.0266~39.6 mg/m<sup>3</sup> (アンモニアとして)

融点/凝固点: -58°C(25%)

沸点又は初留点: 38°C(25%); 25°C(32%)

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体): 燃焼しない

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点: 燃焼しない

自然発火点データなし

分解温度データなし

自己促進分解温度/SADTデータなし

pH : 11.5 <= pH(強アルカリ性)

動粘度データなし

動粘性率データなし

溶解度:

水に対する溶解度 : 混和する

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧 : 48 kPa (20°C)(25%)

蒸気密度データなし

密度及び/又は相対密度 : 0.8980g/cm<sup>3</sup>(20°C) (28%)

相対ガス密度(空気=1)データなし

20°Cでの蒸気/空気-混合物の相対密度(空気=1)データなし

粒子特性データなし

その他のデータ

臨界温度データなし

蒸発速度データなし

VOCデータなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性

重合暴走反応は生じない。

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

非常に揮発しやすい。

危険有害反応可能性

多くの重金属やその塩と反応し、爆発性化合物を生成する。

多くの金属を侵し、引火性/爆発性気体を生じる。

酸と激しく反応し、火災や爆発の危険を生じる。

加熱すると、分解して有毒で腐食性のフュームを発生し、中毒の危険を生じる。

避けるべき条件

混触危険物質との接触。

加熱。

混触危険物質

酸、金属類。

危険有害な分解生成物

窒素酸化物、アンモニアガス、水素ガス

## 11. 有害性情報

本製品は毒性試験を実施していない。成分の利用可能なデータを参照ください。

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[製品]

区分 4, 飲み込むと有害

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(アンモニア水)

rat LD50=350mg/kg (SIDS, 2008)

急性毒性(経皮)

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

データなし

## 急性毒性(吸入)

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

gas: rat LC50=7679ppm/4hr (EHC 54, 1986)

労働基準法: 疾病化学物質

アンモニア; アンモニア水

## 局所効果

## 皮膚腐食性/刺激性

## [製品]

区分 1, 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

## [製品データ]

[pHに基づく分類根拠]

11.5 ≤ pH であることから、皮膚腐食性/刺激性: 区分1に分類した。

## [成分データ]

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

重度の熱傷 (DFGOT vol. 6, 1994)

(アンモニア水)

ラビット: 腐食性 (SIDS, 2008)

## 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

## [製品]

区分 1, 重篤な眼の損傷

## [製品データ]

[pHに基づく分類根拠]

11.5 ≤ pH であることから、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分1に分類した。

## [成分データ]

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

重度の壊死 (DFGOT vol. 6, 1994)

(アンモニア水)

腐食性 (SIDS, 2008)

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

## 呼吸器感作性

## [製品]

区分 1, 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

## [成分データ]

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

cat. 1; ATSDR, 2004

## 皮膚感作性

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

データなし

## 生殖細胞変異原性

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

データなし

## 発がん性

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

データなし

## 生殖毒性

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

データなし

## 特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

## [製品]

区分 1, 臓器の障害

## [成分データ]

## [区分1]

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

中枢神経系、呼吸器 (ATSDR, 2004)

(アンモニア水)

中枢神経系、呼吸器 (HSDB, Access on Jun. 2014; ATSDR, 2004)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

## [区分1]

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

呼吸器 (ATSDR, 2004)

## 誤えん有害性

## [製品]

データ不足のため、分類できない。

## [成分データ]

データなし

---

## 12. 環境影響情報

本製品は生態毒性試験を実施していない。成分の利用可能なデータを参照ください。

## 生態毒性

## 水生環境有害性

## [製品]

区分 3, 水生生物に有害

## [成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

魚類 (ニジマス) LC50=13.0mg/L/96hr (総アンモニア換算値)

(被験物質: NH<sub>4</sub>Cl, pH: 8.29)(Thurston et al., 1981)

(アンモニア水)



アンモニア水 純正化学株式会社,13370jis-5,2023年04月18日

魚類 (ニジマス) LC50=26.8mg/L/96hr (水酸化アンモニウム換算値)

(被験物質: NH<sub>4</sub>Cl, pH: 8.29) (Thurston et al., 1981)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(アンモニア)

甲殻類 (ミシッドシュリンプ) NOEC=3.47mg/L/32days (総アンモニア換算値)

(被験物質: NH<sub>4</sub>Cl, pH: 7.92-8.01) (SIDS, 2007)

(アンモニア水)

甲殻類 (ミシッドシュリンプ) NOEC=7.1mg/L/32days (水酸化アンモニウム換算値)

(被験物質: NH<sub>4</sub>Cl, pH: 7.92-8.01) (SIDS, 2007)

水溶解度

[成分データ]

(アンモニア)

54 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2013)

(アンモニア水)

混和する (ICSC, 2018)

残留性・分解性

[成分データ]

(アンモニア)

急速分解性[水生環境中で速やかに硝化される(SIDS, 2007)]

(アンモニア水)

急速分解性[水生環境中で速やかに硝化される(SIDS, 2007)]

生体蓄積性

[成分データ]

(アンモニア)

log Pow=-1.14 (SIDS, 2007)

(アンモニア水)

log Pow=-2.66 (PhysProp Database)

土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

---

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

---

### 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 2672

正式輸送名 :

アンモニア溶液、15°Cで比重が0.880以上0.957以下であって、アンモニアの含有率が10質量%を超え35質量%以下のもの

分類または区分 : 8

容器等級 : III

指針番号: 154

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 2672

アンモニア水 ,純正化学株式会社,13370jis-5,2023 年 04 月 18 日

正式輸送名 :

アンモニア溶液、15°Cで比重が0.880以上0.957以下であって、アンモニアの含有率が10質量%を超え35質量%以下のもの

分類または区分 : 8

容器等級 : III

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 2672

正式輸送名 :

アンモニア溶液、15°Cで比重が0.880以上0.957以下であって、アンモニアの含有率が10質量%を超え35質量%以下のもの

分類または区分 : 8

危険性ラベル : Corrosive

容器等級 : III

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当): 該当

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

有害でない物質(OS類)

水

MARPOL条約付属書V - HME(海洋環境に有害)

特定標的臓器毒性, 反復ばく露: 区分1 該当物質

アンモニア

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

腐食性物質 分類8

航空法

腐食性物質 分類8

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

劇物(令第2条)

アンモニア(28~30%)(法令番号 8) 包装等級III

労働安全衛生法

特化則 特定化学物質 第3類

アンモニア

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

アンモニア(別表第9の39)

名称通知危険/有害物

アンモニア(別表第9の39)

腐食性液体(規則第326条)

アンモニア水

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年3月31日まで有効)

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年3月31日まで有効)に該当しない。

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年4月1日施行)

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年4月1日施行)に該当しない。

消防法

届出を要する消防活動阻害物質

危険物の規制に関する政令別表第2: 劇物(数量 200kg)

アンモニア水

化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

## 悪臭防止法

アンモニア

政令番号1:敷地境界線許容限度 1.0 - 5.0 ppm

## 大気汚染防止法

特定物質 政令第10条第1号から第28号

アンモニア(政令第10条第1号)

## 水質汚濁防止法

有害物質

アンモニア

法令番号 26: 100mg-(アンモニア性窒素×0.4+亜硝酸性窒素+硝酸性窒素)/liter

## 適用法規情報

輸出貿易管理令

別表第1の16の項

記載した法規情報は意図的成分に関するものです。非意図的成分やサプライヤから開示を受けていない不純物に関する情報は含まれていません。

## 化学安全性評価

本製品の安全な取り扱いに関しては、本SDSの第7章および第8章を参照して下さい。

## 16. その他の情報

## 参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN

IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)

IATA 航空危険物規則書 第64版 (2023年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2022 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2022 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)

Supplier's data/information

化学品安全データ管理システム "GHS Assistant" Version 4.21 (<https://www.asahi-ghs.com/>)

NITE 化学物質総合情報提供システム "NITE-CHRIP"

([https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip\\_search/systemTop](https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop))

事業者向けGHS分類ガイダンス(令和元年度改訂版(Ver. 2.0))(令和2年3月、経済産業省)

## 略称および頭字語

SDS (Safety Data Sheet; 安全データシート)

LD50 (Lethal Dose, 50%; 半数(50%)致死用量)

LC50 (Lethal Concentration, 50%; 半数(50%)致死濃度)

IARC (International Agency for Research on Cancer; 国際がん研究機関)

ACGIH (American Conference of Governmental Industrial Hygienists; 米国産業衛生専門官会議)

EPA (US Environmental Protection Agency; 米国 環境保護庁)

NTP (US National Toxicology Program; 米国 国家毒性計画)

JSOH (Japan Society for Occupational Health; 日本産業衛生学会)

EU (European Union; 欧州連合)

EC50 (Effective Concentration, 50%; 半数(50%)効果濃度)

NOEC (No Observed Effect Concentration; 無影響濃度)

BOD (Biochemical Oxygen Demand; 生物化学的酸素要求量)

COD (Chemical Oxygen Demand; 化学的酸素要求量)

BCF (Bioconcentration Factor; 生物濃縮係数)

anh (anhydride; 無水物)

**責任の限定について**

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ（NITE 令和3年度(2021年度)）です。